

## 聖霊が人の心の板に書き記した“手紙”

Ⅱコリント 3-2,3 (要旨)

説教者 原田憲夫

昨今、手書きの手紙のやり取りが少なくなりました。「拝啓…」書き方も忘れがちです。

素材も様々変化・・・「木簡」、「竹簡」、「書簡」・・・「粘土版」、「石の板」、植物繊維(「パピルス」)、動物の皮-(「羊皮紙」)・・・今は「電子版」e-mail etc.。



### 【1】「古い手紙」が紹介する「新しい手紙」

時代によって、素材は変わります。けれども「伝える」という私たちの営み自体は続きます。

興味深いことに、使徒パウロは2000年も前の「古い手紙」(Ⅱコリント書)の中で、これまでのどんな素材とも違う「新しい手紙」を紹介していたのです。

#### (1) 「推薦状/推薦する手紙」(3章2節)

3-2 私たちの推薦状はあなたがたです。それは私たちの心に書き記されていて、すべての人に知られ、また読まれています。

当時、面識のない教会へ出かける時には、自分が属する教会からの「推薦状」を携えて行くのが習慣だったようです。(参照)ローマ16-1,2

ところがコリントの教会では「推薦状」を持参しないパウロに批判的な人たちがいたようです。そこでパウロは応えます。私たちが携えている「推薦状はあなたがたです」-この私、パウロの手を通して信仰に導かれたあなた方自身ではありませんかと。

#### (2) 「キリストの手紙」(3章3節)

3-3 あなたがたが、私たちの奉仕の結果としてのキリストの手紙であることは、明らかです。それは、墨によってではなく生ける神の御霊によって、石の板にではなく人の心の板に書き記されたものです。

さらにパウロは語ります。この手紙の受取人であるすべての聖徒-キリスト信者たち、あなたがたは私たちの奉仕によって配達された「キリストの手紙」なのです。それはインクではなく生けるご聖霊が、石の板ではなく人の心の板に書き記されたものと。

【2】「キリストの手紙」は今どこに、そして読まれていますか？

今年に入り、全く予想だにできなかった新型コロナ・ウィルスの感染拡大の危険とともに、不安と恐れ、暗さと冷たさが世界中に渦巻いています。間違った情報や人の悪意が飛び交います。不確かなもの、不信実なものも多く、惑わされることも度々です。

#### 「道案内」

ところで、私の義父は、所謂「一等航海士」でした。一等航海士は船の貨物と乗組員の責任者として、キャプテン(船長)に対して船の安全と安心の責任-乗組員の安全、探索、救助の訓練等-を負っていたようです。

義父は2015年6月に洗礼(自宅)を受け、2017年1月に主のみもとに帰りましたが、遺品の中にはたくさんの写真や世界一周を二度経験した手書きのノートがありました。その記録の中から窺えるのは、華々しく見えながら命の危険と背合わせの航海の様子でした。その意味で、彼らの残した情報は文字通り、命懸けの「道案内」です。

「キリストの手紙」は今どこに・・・

私たちの人生航路にも「道案内」が必要です。

時折、「世の光」や「ライフ・ライン」を視聴された方々から、「今日の放送を聴かなかつたら…今の私は存在しませんでした」との「お便り」が届きます。その度にはっとします。また、私の周りには、「あの日の礼拝でキリストのことばを聴かなかつたら…私の人生はとっくに座礁していました」、と語る友人がたくさんいます。

今、もう一度、あの「古い手紙」が現代の私たち-あなたに伝える「新しい手紙」を思い起こしてください。

「あなたは、聖霊がイエス・キリストを主と信じるあなたの心の板に、永遠への道案内を書き記した“キリストの手紙”ですよ。」

そうです、この“キリストの手紙”こそ「人生の道案内」なのです。

しかし今、この“手紙”は、不安と恐れ、暗さと不信の中にある方々に届けられ、読まれていますか？ 封印されたままになっていないでしょうか？

教会堂奉獻31年-感謝とともに、あなたの身近な方々、あなたの隣人にしっかりと読まれるように、主キリストを信じ、恐れず、感謝をもって歩みましょう！

兄弟姉妹、あなたが、「キリストの手紙」です！